

令和2年10月12日「対話のわ」ママサポート長岡京 要旨

テーマ「子育て・女性活躍について」

(はじめに市長より)

・「待機児童」数的には一定クリアしており改善はしているが、場所のミスマッチが残っている。国基準では待機児童0となっている。

・「公園が少ない」たしかに全国平均以下である。市域が狭い。全国平均1人当たり10.6平方メートルに対して、長岡京市3.17平方メートル。5年ほど前は2.6だったが、西代里山公園ができたため上がった。目標4.5平方メートル。住んでいる場所によっても感じ方は違うのではないか。

・「女性の活躍」皆さんご活躍いただいている。今日もいろいろなご意見をいただきたい。

(参加者)

・室内の遊び場が、洛西口や向日市、高槻市といった周りにいろいろあるが、長岡京市にもあればいいな。

(市長)

・今、具体的な計画はないが、うまく公共的なスペースを使って民間事業者が運営する形式の方が皆さんの望むものを提供できるのではないかと考えている。

(参加者)

・一時保育の対象範囲を広げてほしい。積極的に利用できる環境を整えてほしい。専業主婦の方などは、子どもを1時間預かってもらえるだけでも本当にありがたいと思う。ファミリーサポートセンター(以下、ファミサポ)は敷居が高い。

(市長)

・敷居を高くしているつもりはないが、役所の書き方がどうしても書き方が硬いというのはあるかもしれない。なにもサービスがないわけではないが、なんとなく使いにくいというのがあるのだと思う。「なんとなく」の要因がどこにあるのか。運用の仕方でも改善できる部分もあると思うので、しっかり意見は伝えます。

(参加者)

・転入のママが多い。市の広報などを見て、ママサポート長岡京(以下、ママパス)を訪ねてこられる。繋がりを求めてこられる。近隣市町にはママパスのようなところは以外にないようだ。

・長岡京市は子育てしやすいまちと評判。利便性や治安、緑がある。

・広告収入で動いており、自分たちに残るお金はない状態。ママパスと企業が一緒に動き、バックアップがあればもっといろいろなことができるのではという声を読者からもらう。

(市長)

・行政は「つなぐ」役割。転入してきたら知り合いがいなくて寂しいという声は聞く。子育て支援センターなどでの繋がりは大事。

・子育てがひと段落した女性で活動したい人は多い。その受け皿としてママパスのような活動があることは、まちとして大事なインフラであり、ありがたい。行政はどう応援できるか、いろいろ言っていたら。

・行政ではなく皆さんがされているから、よりニーズに合ったものができるのだと思う。

(参加者)

・市が情報発信の手伝いをしてくれている。他市にはない、長岡京市の PR ポイントになるのでは？

(市長)

実際に住んでいる人からの情報発信はリアル。そのような発信をしていただけるのはありがたい。

(参加者)

・子どもが中学 3 年生。受験のときに、もし周りや本人がコロナになった場合、どうなるのか不安。中学校の説明会では「検討中」と。それだけでは不安。

(市長)

・家族がコロナ感染した場合は、京都府で病院やホテルの用意がある。本人がコロナの場合は、高校入試は再試験になるのか？ 分かり次第、そういう情報をお伝えしていくようにする。

(参加者)

・少しでも「こうなるように進めている」という具体的な情報があれば子も親も安心できる。

(市長)

・具体的な心配事を教えてもらえれば、それに対してお答えしたり、用意することができる。起こらないように、というのは難しいが、起こった状況の中でどうできるかは考えていきたい。

(参加者)

・インフルエンザとのすみわけも難しい。コロナだけ優遇するのもおかしいと思う。

・今までインフルエンザで受験できなかった場合はどうだったのだろう。私学では救済措置があるというのも聞いたことはあるが、府立はどうなのだろう。

(市長)

・過去、インフルエンザで受験できなかった場合はどうだったか確認する。

(参加者)

・ファミサポはどんな仕組み？利用料は？

(市長)

・1時間あたり700円。

(参加者)

・(ママパスの活動場所である)ロングヒル内にあるアンテナという場所を使って、託児のサポートをできないか考えている。場所は提供するので、紹介制度のような感じでうまく連携できないか。

(市長)

・アンテナが事業としてするのであれば可能性はあるのではないか。何かあったときの担保、安全性をどう担保できるかだと思う。

(参加者)

・子育て支援センターは、どこの管轄ですか。

(市長)

・市の直営と民間事業者に委託しているものと二種類ある。

(参加者)

・「市民団体」として活動している。「会社」にしてしまうと、動きにくくなるのではないかと思い、そうしている。

(市長)

・アンテナで活動するのに、ちょっと子どもを預かってもらえないということですか。

・例えば公民館で市のイベント時、子どもの預かりはファミサポにしてもらっている。

(参加者)

・市民団体に活動するときにも利用できるよいのだが……。人材派遣を利用すると法に触れる可能性もありうる。行政で後ろ盾してもらえたらありがたい。

・現状では、ファミサポは「自宅で預かり」となっており、この縛りを何とかしてほしい。そういうのがあると子育て世代が住みやすい。

(市長)

・今の仕組みでは難しいが、ニーズがあるのであれば検討したい。

(参加者)

・例えば「エール飯」など、市のいろいろな情報を SNS で発信している。他の団体からみれば「なんであの人たちばかり……」となるかもしれない。会社にしなくても周りにも認めてもらえる団体にしたい。

(市長)

・会社にしてしまうと、行政は必ず公平性を問われる。

(参加者)

・行政がバックアップしているということでママパスは信用されているので、連携が取れている。しかし、対価はなく、続けていくのは大変。どういう形がよいのか模索している。

(市長)

・大変なのは、財政的な部分？

(参加者)

・今のメンバーはお金ではないところで繋がっているが、実際子育てしながら活動するのは大変。そのため、責任があまり発生せず、ゆるい感じのできるようにしている。補助金などで回るようにはしている。

(市長)

・行政として事業を支える方法はあるが、そこに依存しては皆さんが求めるものと違ってくると思う。クラウドファンディングなど、違った形はないか…。

(参加者)

・ママだけでなく、お店や行政も一緒にすすめたい。みんながウインウインの関係の中で動いている。今後も続けていきたいがどの形がよいか探っているところ。

・ママパスは市が出していると誤解している人が多い。事業化していないからかもしれないが、事業化せずに良い形が取れないかと思い、ずっと動いている。

(市長)

・難しいテーマですね。

(参加者)

・長岡京市で成功事例ができればいいなと思っている。

(市長)

・行政としてどういう支え方ができるか、だと思う。

・事業化することによって、皆さんの主体性を削ってしまうと意味がない。

(参加者)

・長岡京市に「まちづくり会社」はないのか。

(市長)

・「会社」としてされているのは、あまり聞いたことがない。

(参加者)

・「長岡京都市開発株式会社(以下、都市開発)」は、もう少し活発に動いてもらえれば良いなと思う。若い世代が入ればもっといろんなアイデアが出るのではないかなと思う。

・世代を超えてのコミュニケーションは難しいものがある。

(市長)

・行政としてはクリアするのが難しい側面があり、そこをどう超えていくかという問題だと思う。

・例えばバンビオ前の空間をイベント時だけでなく、日常的にどう使うかが大事だと思っている。いわゆる公共の空間を、どう使うか。まちづくりに大切なのは、居心地のよいスペースをどういう風にまちの中に作っていけるか。これからつくる市役所前広場もそのひとつ。

(参加者)

・参考にしているところはあるか。

(市長)

・新潟県長岡市の事例は参考になる。隈研吾さんの作。現地視察にも行ったが、庁舎とホールなどいくつかの施設が複合であり、とても居心地がよさそうなスペース。庁舎の真ん中に机があり、自習している子どももいれば打合せしている会社員もいて、気持ちの良い空間になっている。

・具体的に検討しているのは JR 東口。藤棚があるあたりのスペースにオープンカフェなど滞在できる空間にできないか、などを検討している。そのときに、子育て世代や女性のアイデアを出していただければありがたい。

(参加者)

・隈研吾さんといえば、守山が図書館や市役所を手掛けたと聞いている。

(市長)

・隈研吾さんは、シームレス、つまり境目をなくしましょうというコンセプトをもっておられる。どこからが民間でどこからが公共かわからないような、境目のない空間。そのようなまちを作っていけると面白いと思う。

(参加者)

・立命館の茨木キャンパスが近いイメージかと思う。

(参加者)

・長岡京市もそのようなイメージで進められるのか。

(市長)

・事業をやっていくときにそういうものをうまく実現できるようにやっっていこうとはしている。

・最後、やはり大きなテーマは阪急長岡天神駅前のまちづくり。ポイントは滞在性だと思っている。

(参加者)

・大津駅のような、観光案内所のようなカフェができればいいな。

(市長)

・鉄道を上にあげるのに時間はかかるが、一旦線路を東にふることになれば、西口の開発は早いかもしれない。

(参加者)

・おしゃれなまちにしたい。

(市長)

・長岡京市らしい洗練されたまちにしたいが、合意形成が必要。みんなが「こういう街並みにしよう」というコンセプトを共有しなければならない。

(参加者)

・市長は何期されますか。市長が変わったら計画が止まらないか心配。

(市長)

・ポジティブに受け止めますが、その市長を選ぶのも皆さんなので…。まずは一步踏み出していかないと進まない。

(参加者)

・ながすくアプリに、もっとわくわくするイベントがのっていたらいいな。もっと写真や動画があればいいな。字だけはわかりにくい。行ってもよいのかなという気持ちになる。

(市長)

・たしかに、出し手目線になってしまっている。連絡網としての登録者数は増えているが、もっと違うアピールのツールとして使えるかなとは思っている。

(参加者)

・登録しても、必要なくなったときにわざわざ削除はしないと思うので、純増がどれくらいなのか。実際使っている人はどれだけいるのだろうか。

(市長)

・現役で保育所からの連絡ツールとして使っているひとと、登録者数の差が2,000くらいはあると思う。

(参加者)

・市のホームページは見にくい。探しにくい。

(市長)

・最近検索サイトからたどりつかれる人が多いと思う。情報量が増えているのもある。

(参加者)

・神戸市が見やすい。検索トップワードが出てきたりする。

(市長)

・参考にさせていただく。

(参加者)

・阪急とJRの中間あたりに住んでいるが、公園が身近にほしい。歩いていける範囲に公園がほしい。近所に小学生が遊べる場所がない。子どもだけで安心して遊べる公園が市の中心にあればいいな。

(参加者)

・公園をなくしていったのか。

(市長)

・公園が減っているわけではない。ある程度の宅地開発をするときには公園をつくらなければならない、というのは変わっていない。

(参加者)

・公園と名はつくが機能していない公園もあると思う。子どもたちがのびのび遊びまわられる公園ではない公園。

(市長)

・なかなかまとまった土地を中心市街地で確保できるかというのは難しい。どうしても少し外側につくらざるを得ないという状況はある。

(参加者)

・車がない人にとっては、しんどいようだ。

(市長)

・そもそも市域が狭く土地がない中で、まちなかに公園というのは難しい。

・しかし、親子連れでも滞在できるスペースを、駅前という立地だからこそできるものもあるはず。公共空間の居心地をどう高めていくかというのを、市としてやっていかなければならないと思っている。

(広報発信課長)

・本日の対話のわは以上となります。ありがとうございました。

(市長)

・ありがとうございました。